

## 「2025年度香港中文大学サマープログラム派遣参加報告書」

京都大学経済学部2年 竹田 翔太郎

今回の香港中文大学サマープログラムを通して、自分の中で最も変化したことは中国語で話すことに対する積極性だ。事前語学学習を含めこれまでの京都大学での中国語の学習においては、間違えることを恐れてとにかく正しい中国語の文章でなければならないという考えが自分の中にあったが、実際に香港に行ってみると、なんとか自分の言いたいことを中国語で伝えようとする意志や、限られたボキャブラリーを駆使してとりあえず話してみるといったことが何よりも重要であるということに気づかされた。香港中文大学の授業では、先生が学生をランダムに当ててその人なりの中国語を引き出してくれたり、積極的にペアワークを取り入れてクラスメートと中国語で盛んに会話できる場を設けてくれたりなど、京大での学習よりも「話す」ことにフォーカスした授業が展開されていた。初めのころはクラスメートの前で中国語を話すことに緊張して自分から話すことを躊躇っていたが、徐々に自分の中にボキャブラリーやフレーズが蓄積されていって、学んだことを活用・応用できる楽しみを覚えるようになった。授業で扱うテキストの内容としては、日常でよくありそうな会話シーンや現代の香港の様相などが主として含まれていて、中国語を学びながら同時に香港の実態についての知識も増やすことができた。また、クラスの中には日本人以外の学生もいて、普段聞くことのないような海外の文化やその国での常識なども授業の中で聞くことができ非常に良い国際交流の場となった。

香港での生活は総じて良かったと感じている。香港に到着してからの数日は天気がとても悪く、毎日激しく雨が降っている状況だったが、2週目からは比較的晴れの日が多く過ごしやすい気候が続いた。大学は郊外に位置していたが、スーパーや飲食店は概ねキャンパス内や大学駅周辺にそろっており、普段の生活で不便をすることは少なかった。唯一の不便というと、限定的な支払方法である。香港ではスーパーや飲食店、ショッピングモール、電車など生活のほとんどの場面でオクトパスというキャッシュレス決済方法が使える、逆に現金やクレジットカードを進んで使う場面は少なかったように思う。加えて、物理カード式のオクトパスのチャージは現金でしかできないため、思いのほか現金を消費することになり支払方法に困ることが多かった。来年からこのプログラムに参加する方々には、「香港に行くまでに事前に日本でオクトパスのモバイルアプリをインストールして、アプリにクレジットカード情報をいれておく」ということをお勧めしたい。

プログラム内容として良かったと感じる点として、香港中文大学では普段の授業の他に、定期的に課外イベントが開催されていたことが挙げられる。具体的には香港ツアーやランタオ島ツアー、キャンパスツアー、文化体験アクティビティなど様々な課外活動が用意されており、どれも非常に中身の濃いものだった。また、休日にはクラスメートのほとんどが大学の外に出て、それぞれ思い思いの休日を過ごしていた。実際に私も香港内の観光地に留まらずマカオや深圳にも遊びに行って、そこで様々な人々や文化に触れ、とても貴重な経験を得ることができた。

今回の香港中文大学サマープログラムを通して、母国語以外の言語で話すことや海外の文化を知ることに対する意欲が大幅に向上したことに加え、中国語学習のモチベーションもアップした。この3週間の学びを無駄にすることなく、HSKの取得を目指したりキャリアの幅を広げたりするなどして、これから大いに生かしていきたい。